

れるのか不思議な思いに駆られた。

7月1日

7時30分に父島二見港を出港。9時30分母島沖港に到着。11時から母島の記念式典。

18時 はは丸(い)

ナイト2018に参加(母島泊)。

7月2日

10時 東京都町村長・町村議会議長合同会議が開催され、小笠原の空港問題や自然環境等、意見交換。

12時30分母島沖港を出港。

14時20分父島二見港に入港。

15時30分小笠原丸に乗り換え、盛大な見送りを受け二見港を出港。

7月3日

15時30分東京竹芝に到着。5泊6日の長い船旅であった。

小笠原の訪問を振り返って

現状の小笠原は元気で活力に満ちているが、昭和50年代の離島ブームで燃え上がった伊豆諸島のように、一過性のブームにならないことを願うのみ。特別な環境や自然遺産を大切に育て、緊張感を持続し、地道な努力が求められてくる。

今回の出張は東京都13町村の町村長・議長と合同であったこともあり、13町村長と議長との小笠原返還50周年記念式典参加を通じ、よりコミュニケーションを深めることができ大変有意義な旅であった。お世話していただいた関係各位に心から感謝を申し上げます。

長野県南部の先進地を視察！

議会改革・移住促進・産業振興をさぐる

島しょ会館から貸し切りバスに乗って、5月24日から1泊2日で長野県先進地視察に出発した。

今回のテーマは『議会改革』である。ここ一年、全員協議会・総務常任委員会の中でも意見交換されてきたテーマである。

選定のきっかけは、議長が配った議会改革先進事例の新聞特集からである。

何力所か打診した結果、『夜間休日議会』を開催している長野県の喬木(たかぎ)村を選ぶことになった。

喬木村議会ウェブサイトに掲載されている議会改革レポートを事

湖から南下する形で喬木村に到着した。

今号には喬木村議会訪問(12・13ページ)

前に読み、先方に事前質問を連絡した上で当日を迎えた。道中、2027年開通予定のリニア中央新幹線の高架を横目に見ながら長野県を北上し、休憩に寄った諏訪。湖から南下する形で喬木村に到着した。今号には喬木村議会訪問(12・13ページ)だけだけでなく、周辺の視察先である、小池手造り農産物加工所(14ページ)、下條村(15ページ)を掲載し、次に温泉トラフグ養殖事業を掲載予定である。(文章 木村諭史)



長野県 視察先の地図

夜間・休日議会で議会は変わる!?

充実の意見交換は2時間を超えた!



事前の資料読み込み&事前質問を経た有意義な意見交換も

長野県喬木村へ、議会改革の取り組み状況を視察した。喬木村議会からは10名の議員に出席していただき、岡議長から議会改革の

スライド説明の後、質疑応答に入った。スライドは全52ページにおよび、議員全員が自由に編集・発表できる。

地区を大事にする喬木村の背景

明治8年に5か村が合併し現在に立っている。南信州に位置し、岐阜県愛知県静岡県に隣接する山村地域である。10地区のうち2地区で議員が不在となっている。

夜間休日議会の意義は? 議員のなり手不足の解消が主な目的である。

村議会議員選挙が、平成13年以降無投票と選挙を交互に繰り返して、直近の平成29年は無投票。

だが成果があらわれるのは平成33年の選挙であろうとの見通し。

議長が牽引&引くに引けない状況で取り組んだ

無投票をきっかけに議会改革委員会で検討をはじめ、平成24年に前議長が主導して議会基本条例が制定された。

現議長による『議会活性化のための15の提言』のうちの1つとして実現。

構想段階で新聞に載ったことで、スピードアップもしたが、議員各位には負担が思ったかと思われる。

議会傍聴者は増えてきた? 行政職員が夜間休日開催のため、見に来られるようになった。

議会中継は行っており、議会モニター制度を行っているため議会傍聴者が多いとのこと。

議会モニターで市民の視点&なり手を引き込む!

議会モニターは地区1名ずつ+公募4名の20名であり、高校二年生も入っている。

耳の痛い意見も出してくれている。議会モニター経験者も傍聴に来てくれたりしている。

わかりやすい資料で傍聴者をはなさない! 普通の予算書ではなく、分かりやすい予算書で審議し、持ち帰れる配布資料もある。次回も傍聴に来てもらえるように工夫をしている。(文章 木村諭史・大沼弘一)



大沼弘一の視点！

新島村とは様々な環境の違いはあ

るが、幅広い年齢層、多様な職種・立場の議員が活動できる議会環境の整備が必要と感

議員定数の削減も検討課題であるが、

住民の代表が減ってしまうことや、少数の議員で物事が決定される懸念もある。今後慎重に議論していく必要を感じる。いずれにしても議員一人ひとりの資質を高めていく努力が大切と改めて感じさせられた。



前田卓秀の視点！

夜間休日議会の取り組みにより若手議

員や兼業議員のなり手不足解消になると思われる。そして幅広い年齢層の男性や女性が議員として参加し多様な考えや意見を村政に反映できるよつになる。

多様な人材を確保するには若手兼業議

員が活動しやすい環境作りが大切である。今のところ新島ではなり手がいないとは思われないが、若手議員のなり手が少ないように感じる。今後の事も考えて新島村議会も取り入れ



山本均の視点！

必ずしも選挙になる

ことにはこだわっておらず、それよりも議員不在の地区があることが問題と下岡議長の説明があった。私たちの村議会を考えてみると、やはり相容れない部分があり、選挙がないのは良くないと思う。

られる事は取り入れ議会改革をしていきたいと思う。

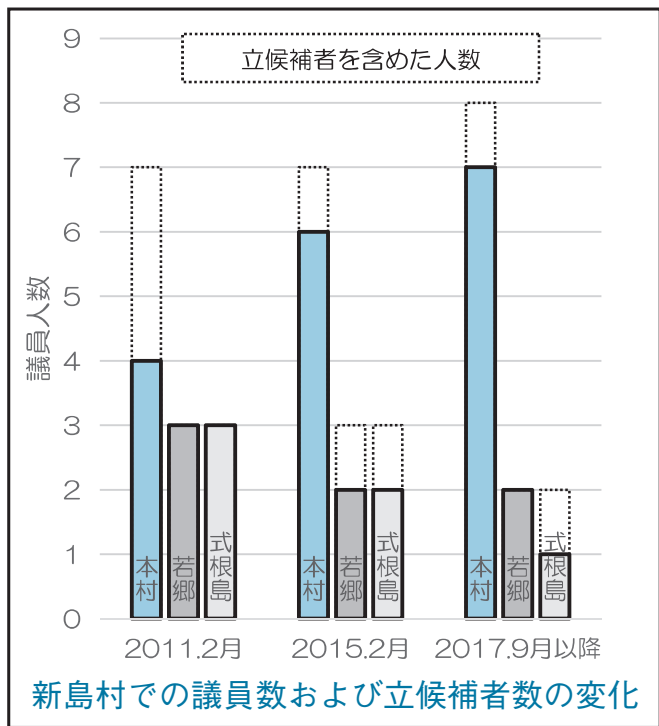


議会の働きは法律によって決められ全国一律のものであるが、実際の役割は地域によって異なり、歴史的沿革

に左右される。喬木村も議員の多くが地区推薦によって輩出されたことを考えると、50年ほど前には地区内で完結する生活が普通だったのではないかと想像する。

それぞれ候補者が自己の所信を表明し、有権者の審判を仰ぐ。この基本はわが村ではずっと踏襲されてきていると理解する。

私の考えは、議員定数を削減して選挙体制を維持して有権者の審判のもとに選良を選出すべきということである。



魅力的な農産加工技術を視察！

起業者の熱意と創意工夫に最高の刺激が！

元新島村ふれあい農園の担当職員であった小林氏からの紹介があり、小池手造り農産加工所有限会社を訪問した。

同社は売上の7割を占める委託加工を中心に自社製品の製造・販売も行っている。従業員は31名で、全国のべ2000件ほどの農家との取引がある。

加工品の魅力の秘密は？

地域の素材を生かした手造りへのこだわりと、『今日入った原料は今日製品にして納入する』小ロット生産を貫いている。

農産物を加工品にすることで、多品目化と賞味期限の長期化、高

味見による微調整が重要だそうだ。

コツコツ積み重ねて事業化へ

会長の小池芳子さんは、昭和7年生まれで、農村女性として無人販売所を全国に先駆けて実施した。

付加価値化を実現している。他産地と混ぜずに持ち込まれた作物だけに加工することで、個性的で魅力的なオリジナル商品が生まれる。容器と装置への熱湯消毒、手間暇かけた加工技術、長年の経験と

喬木村議会議員を二期務めたのち、60歳で小池手造り農産加工所と



たくさんの加工品が並ぶ事務所で小池会長と。

して独立した。その後2001年に法人を設立した。77歳のとき黄綬褒章を受章。

(文章 森田一)



青沼喜八の視点！

日本全国から原料となる農産物が集まり、委託加工の注文が来ることに驚いた。その出発点は行政からの補助金では制約があったので自分が描く本物のジュース加工はできないと思い、喬木村の農業生産意欲につながったこと、今があるといったことに感銘を受けた。

森田一の視点！

新島農協でも取り入点か質問したが、『加工方法にしても、加工機器にしても、ここに来れば何でも教えます』とのこと。隠すものは何もないとの事でした。



棚には『小池芳子の手造り食品加工品のコツ』という本が

品目別に数10冊並んでおり、2冊ほど買ってききましたが、写真やイラスト入りでとても丁寧に書かれてあり読みやすい本です。

子宝村の奇跡と今をさぐる！

奇跡の根底には住民自治が！

子育て世代の移住を促進し、奇跡の村と呼ばれる下条村を訪問した。残念ながら議会視察は他議会とバッテリーが、調整がかなわず当議会の自主的な視察となった。

途中の観光施設『そばの城』にて、地元に通じた方から説明を伺うことになった。

下条村の施策とは？

独 自の子育て支援として、高校までの医療費無償化、出産祝い金支給事業、保育料の引き下げや無料化、入学祝い金の支給、給食費補助等の支援を行っている。若者定住促進住宅としてマン

ション並みの広さの住宅を数多く格安で提供している。

健 全財政を維持するために役場の効率化を実施するとともに

住民参加による公共事業費の削減にも努めている。

その成果により多くの若者世帯が移住し、奇跡の村として合併せずに活性化に成功している。(文章 木村諭 史・大沼弘一)



充実した設備かつ低価格の村営住宅。2LDKで3万4千円。

大沼弘一の視点！



近 くに飯田市がありそのベッドタウンとしての役割もあり、当村と違い働く場所が確保できている。だが反面、高校進学、大学進学等により子育てがある程度終われば定住化せず離れていく世帯が多いという課題も見えた。

先 ずは、新島村住民が住みやすい村を築くことが大切でありそれが定住化促進の近道であると改めて考えさせられる。

青沼弘の視点！



子 育てが終わると実家のある所や近隣の町に引っ越していく人が増えており、ピーク時よりも人口が減ってきていると言う。その要因の一つとして、近場に働く場所がないということも考えられるのではないかと考えていた。

働 く場所の確保・子育て支援などが充実していれば、新島村でも、人口減少は防げるのではないかと思う。